

第2回福井県自転車活用推進計画検討会議 議事録要旨

日 時：令和元年11月5日（火）10：00～12：00

場 所：福井県織協ビル5階 501会議室（福井市大手3丁目7）

出席者：名簿のとおり

意見等：

○議事（1）自転車の活用推進に関する県民調査 結果概要（速報）について
事務局より、県民調査の結果について説明（資料1-1、1-2）。

主な意見は以下の通り

- ・ 福井市では「自転車利用サポーター制度」を設けて、企業や団体として自転車利用に取り組んでいただいている。約50社が登録。職員への交通安全教育の際に、自転車のルール等を周知してもらっている。
- ・ 全ての県内企業について把握しているわけではないが、特別に自転車通勤を推奨しているということは福井県商工会議所連合会では伺っていない。企業としては、駐車スペースの不足や事故防止の観点から、自転車通勤の推奨をすることがあるかもしれない。
- ・ 自転車損害賠償責任保険への加入を義務化すべきという意見が、思ったより少ないように感じる。全国では都道府県単位や市町単位で義務化しており、遅ればせながら福井県でも話題になってきたという印象。
- ・ 県内での自転車事故は少ないが、他県では1億円近い賠償命令が出ている例がある。県民がそうした情報を知らないのではないか。保険加入は義務化が必要だと考える。
- ・ 保険加入を義務化していただきたい。
- ・ 長野県は、信号の無い横断歩道で自動車が歩行者を待ってくれる割合が長年全国1位である。これは、待ってもらった時にお礼をするよう、子どもに教育しているため。
- ・ 福井県では小中学生、高校生の子どもの自転車利用が多いため、子どものマナーアップが重要。保険については、保護者に周知が必要。
- ・ アンケートは現状であり、この中から課題を抽出し計画策定につなげることが

必要。

- ・ 福井河川国道事務所では、10月に九頭竜川沿いをサイクリングする「ドラゴンリバーライド」を開催。アンケートで「このような良いコースがあることを知らなかった」という意見が多く、サイクリング環境の周知は重要と感じた。

○議事（2）「福井県自転車活用推進計画（仮称）」における主な取組み（たたき台）について

事務局より、計画における主な取組み（たたき台）について説明。（資料2）

主な意見は以下の通り

- ・ 福井河川国道事務所では、県内の直轄国道や河川の管理者、自転車活用推進本部（国土交通省）の県内出先機関として、計画策定に向けての提案を事務局に行った。（参考資料について説明）
- ・ アンケートから現状と課題を抽出し、計画の大きな目標を設定すべきではないか。
- ・ 計画にいかに関行性を持たせるかが重要であり、施策の主体（団体、県担当課）とスケジュールを明確にし、年1回程度は進捗をフォローアップしていく必要があると考える。
- ・ 自転車に乗ってもらった理由は何か、ということをしっかり決め、目標に具体的に記載すべき。
- ・ 施策【3】は来県者向け、他の施策は県民向けの内容と性質が異なるため、検討会議において一括で議論するのではなく、小規模な分科会を作って議論すべきではないか。

○議事（3）福井県サイクリングモデルルートの検討について

事務局より、福井県サイクリングモデルルートの設定の考え方について説明（資料3）

主な意見は以下の通り

- ・ ナショナルサイクルルートを目指す場合は路面表示の更新を行う必要があり、計画に反映できると良いのでは。
- ・ 嶺南と嶺北との接続が気にかかるほか、ナショナルルートを目指すのであれば、しまなみ海道から琵琶湖一周（ビワイチ）、福井県から石川県、富山県とつながるのが望ましいと考えるが、近隣府県との接続はどう考えるか。

- ・ 全国の人気サイクリングルートでは、ビワイチや能登半島一周など、分かりやすいルートが多いが、現状の福井県のルートは分かりにくい。
 - ・ 水辺をつないでいくと分かりやすい。道の駅九頭竜を起点に九頭竜川を河口まで下り、越前海岸を南下。嶺南と嶺北の接続は木ノ芽峠を越え、嶺南のリアス式海岸を巡る、というシンプルで分かりやすいルートが良いのではないか。
 - ・ 競技スポーツとしてとらえると、有名どころで上げるとツール・ド・フランスのような形式で、そこまで大規模でなくても良いが、県内で開催できるようなルート設定をすると良いのではないか。
 - ・ 福井県内で、そうした競技スポーツの会場となりうるルートはあるのか。
- ⇒平成30年「福井しあわせ」元気国体の自転車ロード・レース競技で使った、大野市内のルートがある。競技でなくレクリエーション・スポーツということであれば、県サイクリング協会が毎年開催しているサイクルスポーツ大会や、嶺南で開催される若狭路センチュリーライドのコースがある。
- ・ 嶺北と嶺南の接続やナショナルサイクルルートを目指しての検討となると、自転車のみで走破するのは時間がかかるルートとなることも想定され、鉄道やバス、タクシーとの接続も重要となるのではないか。
 - ・ 福井鉄道では令和2年度からサイクルトレインを運行することを検討している。他社と比べ車両が小さいため、スペース面の課題をクリアする必要がある。
 - ・ えちぜん鉄道では2006年から、4～11月の土日祝日の昼間のみサイクルトレインを運行している。高架駅など利用できない駅はあるが、モデルルートとの連携も可能か。

○全体について

- ・ 福井県に来てから、自動車利用者は、歩行者や自転車に対する注意が薄いと感じる。
- ・ 毎日自転車通勤をしているが、右折待ちの自動車が急いで右折してきて轢かれそうになることがある。自転車利用者が肩身の狭い思いをしているのではないかと。安全意識の向上が重要。
- ・ 自動車利用者が歩行者や自転車を優先に考える意識向上、自転車にとってフレンドリーな県を目指して進めて行けると良い。

- どの施策に重点を置くのか、誰に向けて発信するのかを明確にすることにより、計画を読む側にとって分かりやすくなるのではないか。
- 丸岡町で「自転車に優しいまちづくり」を担当していた時、女性目線でどうすれば良くなるか考えていたが、現在の坂井市もあまり自転車に優しいとは言えない。女性目線では資料3のルートが分かりにくいのではと感ずるため、そうした視点で分かりやすい表現を考えていただきたい。